

迅速発育抗酸菌における薬剤感受性プロスマイク RGM の結果解析

◎岡本 真太郎¹⁾、東田 和子¹⁾、中島 陽子¹⁾、平田 京子¹⁾、小迫 卓矢²⁾

株式会社 エスアールエル SRL Advanced Lab. FMA¹⁾、株式会社エスアールエル セントラルラボラトリー 細菌検査部²⁾

【はじめに】迅速発育抗酸菌 *Mycobacterium abscessus* complex は治療薬であるマクロライド系薬剤に *erm* 遺伝子による耐性を示す株が存在する。

プロスマイク RGM (極東製薬工業) を用いて非結核性迅速発育抗酸菌のマクロライド誘導耐性株について知見を得たので報告する。

【対象と方法】2024年4月～2025年5月までの期間に九州一円より依頼された抗酸菌培養同定検査において迅速発育抗酸菌と同定された32株のクラリスロマイシンとアジスロマイシンのMIC値を培養3～5日目中間判定と培養14日目最終判定を比較してマクロライド誘導耐性の有無を解析する。

【結果】質量分析で迅速発育抗酸菌と同定された32株中25株が *M. abscessus*、残り7株は *M. cheloneae* complex、*M. fortuitum* complex、*M. mucogenicum*、*M. goodii* であった。*M. abscessus* 25株中12株はクラリスロマイシン、アジスロマイシンとともに培養3～5日目中間判定時点でMIC値 [$\geq 8\mu\text{g}/\text{mL}$] で耐性と判定された。25株中11株は中間

判定と最終判定ともにクラリスロマイシン [$\leq 4\mu\text{g}/\text{mL}$]、アジスロマイシン [$\leq 4\mu\text{g}/\text{mL}$] で感性と判定された。25株中2株のMIC値判定はクラリスロマイシン中間判定 [$2\mu\text{g}/\text{mL}$]、最終判定 [$> 64\mu\text{g}/\text{mL}$]、アジスロマイシン中間判定 [$32\mu\text{g}/\text{mL}$]、最終判定 [$> 64\mu\text{g}/\text{mL}$] の株と、クラリスロマイシン中間判定 [$0.125\mu\text{g}/\text{mL}$]、最終判定 [$> 64\mu\text{g}/\text{mL}$]、アジスロマイシン中間判定 [$2\mu\text{g}/\text{mL}$]、最終判定 [$> 64\mu\text{g}/\text{mL}$] の株であった。

【考察】今回の解析により *M. abscessus* と同定された菌株において 8.0% (25株中2株) は MIC 値の上昇が顕著であり、マクロライド誘導耐性が確認された。これと耐性の12株を合わせた 56.0% (25株中14株) はマクロライド耐性株であると考えられる。*erm* 遺伝子によるマクロライド系薬剤耐性化の発現には時間が必要するため、中間判定で感受性であっても、適切な薬剤選択のためには14日間の培養による確認が必須である。

(連絡先 ; 050-2000-4854)